

#せかメン
映画

世界メンタルヘルスデー 映画上映会プロジェクト2026

映画をきっかけに
メンタルヘルスについて
一緒に考えてみませんか



開催日時

9/27(日)

14:00~17:00

場 所

茂来館 2階 視聴覚室

参加費/定員

無 料 / 定員20名程度

お問い合わせ先

佐久穂町地域活動支援センター
(陽だまりの家 担当:水谷)

電話:0267-77-7287

主催：佐久穂町地域活動支援センター
(陽だまりの家)

後援：佐久穂町、佐久穂町教育委員会
提供：(C) Nihon Denpa News Co., LTD.

映画をみて
語り合
い
ましょ

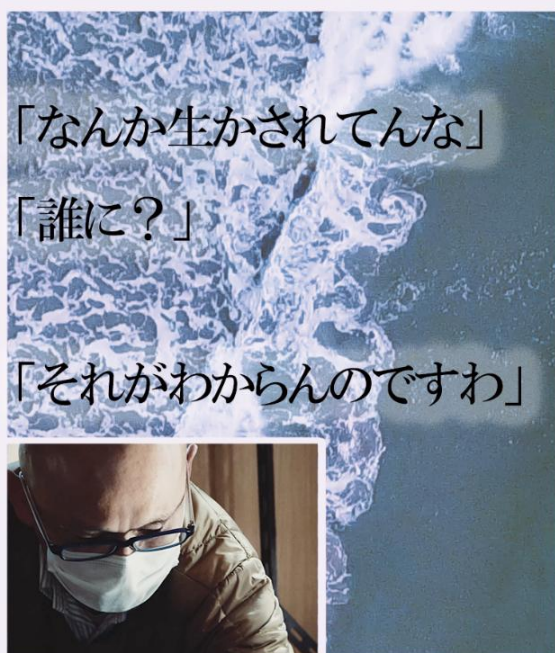


せかメン映画
公式サイト
最新情報は
こちら



世界メンタルヘルスデー
～つながる、どこでも、だれにでも～

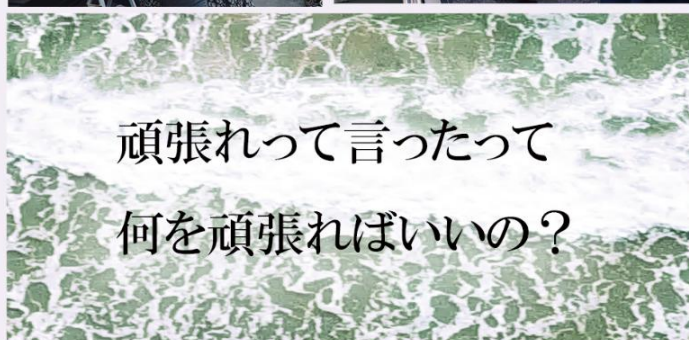
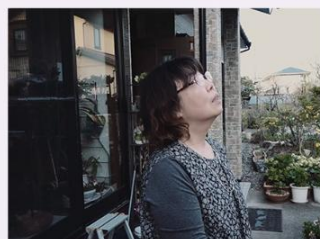




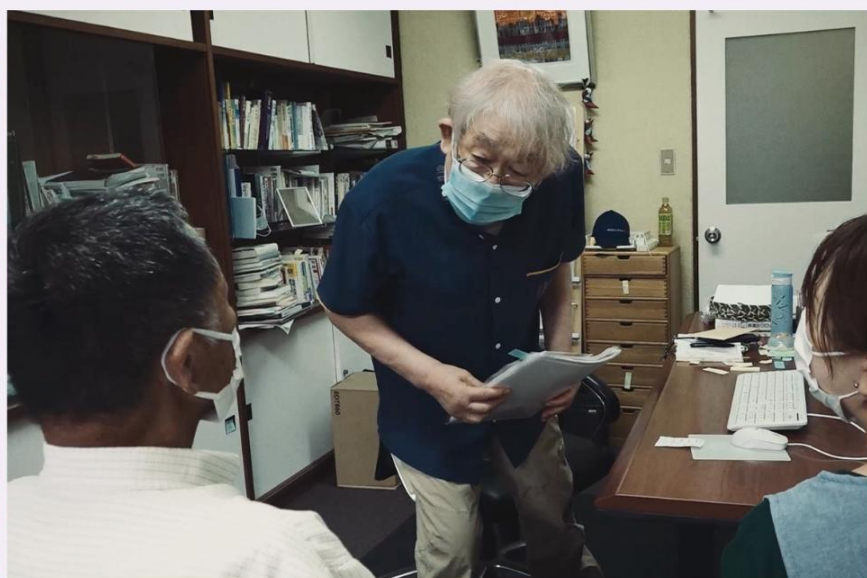
「なんか生かされてんな」

「誰に？」

「それがわからんのですわ」



頑張れって言ったって
何を頑張ればいいの？



「人間もつと泣かなきゃだめだと思う」

震災と原発事故から13年。福島では、時間を経てから発症する遅発性PTSDなど、こころの病が多発していた。若者の自殺率や児童虐待も増加。メンタルクリニックの院長、蟻塚亮二医師は連日、多くの患者たちと向き合い、その声に耳を傾ける。連携するNPOこころのケアセンターの米倉一磨さんも、こころの不調を訴える利用者たちの自宅訪問を重ねるなど日々、奔走していた。

津波で夫が行方不明のままの女性、原発事故で避難中に息子を自死で失い自殺未遂を繰り返す男性、避難生活が長引く中、妻が認知症になった夫婦など、患者や利用者たちのおかれた状況には震災と原発事故の影響が色濃くにじむ。

かつて沖縄で沖縄戦の遅発性PTSDを診ていた蟻塚医師は、福島でも今後、同じケースが増えていくのではと考えていた。

ある日、枕元に行方不明の夫が現れたと話す女性。「生きていていいんだという希望を持った時に人は泣ける」と蟻塚さんは話す。米倉さんは、息子を失った男性にジングスカンを一緒に焼くことを提案。やがてそれぞれの人々に小さな変化が訪れていく。

喪失感や絶望に打ちのめされながらも日々を生きようとする人々と、それを支える医療従事者たちのドキュメンタリー。

